

Q 筆の里工房周辺の公園整備

A 公園、トイレ等を設置すれば、魅力ある観光交流拠点になると考える。(三村町長・森本建設部長)

筆の里工房周辺の公園整備及び筆の里工房から赤穂峠や城山への遊歩道の整備について問う。

筆の里工房周辺の赤穂峠や城山は、平成25年度に県の補助金を活用して、雑木の伐採や間伐、勾配のきつい箇所については階段の設置等を行い、山道整備を進めてきた。この山道には、地元ボランティア団体による案内板が設置されており、筆の里工房は、登山者の休憩の場所となっていることから、筆の里工房周辺に公園、トイレ等を設置すれば、登山者や観光客にとって魅力ある観光交流拠点になると考えている。今後の里山林遊歩道整備については、地元ボランティア団体等と連携を図り、親しみやすい里山として、多くの方々に利用していただければと考えている。



藤本 哲智 議員

Q 町内の安全(カーブミラーの不具合)

A パトロールの強化、迅速な工事発注に努めていきたい。(森本建設部長)

町民からの通報であるが、カーブミラーの不具合がたくさんあるとのこと。町として見回りを強化し、保守・点検などに関してどの様に考えるのか。

カーブミラー等の道路安全施設は、職員や臨時職員が現場に出るたびにその不具合の発見に努めているが、数が多く町民からの情報提供に頼っているのが現状である。カーブミラーの不具合を発見した場合、鏡面の方向修正等軽微なものは、職員で対応可能だが、破損の場合は、業者へ依頼している。また、破損が事故による場合は、その原因者に保険等で修理を依頼している。カーブミラーの不具合は、交通事故発生の可能性が増すことから、職員、臨時職員によるパトロールの強化、迅速な工事発注に努めていきたい。

Q 小・中学校のインターネットリテラシー情報マナーに対する取組みは

A 「ゼロの日」運動を提唱し、推進していきたい。(林教育長)

インターネットの普及による社会の情報化は、子どもたちの生活や心身の問題に大きな影響を及ぼしている。特にスマートフォンは、長時間利用による健康や学習への悪影響のほか、いじめやインターネット上の犯罪の温床になるなど、多くの問題が浮上している。インターネットの適切な活用方法、情報マナーの向上について教育委員会はどのような取組みを行っているのか。

県内の教育長会等で構成する「携帯電話等に係る啓発活動推進会議」が、午後9時以降はスマートフォン等による通信をしない、「ストップ・サイン」という活動を全県一斉に展開することになった。また、本年4月から、町独自に、毎月「10・20・30日」には、テレビ、ゲーム、スマートフォン等を使用せず、その時間に「くまどく」などに挑戦する「ゼロの日」運動を提唱し、推進していきたいと考えている。



山野 千佳子 議員

Q 小・中学校各施設の総点検を

A 全ての学校の最上階教室の天井裏の点検を実施した。(藤森教育部長)

12月議会において質問し、議員発議も議決された小・中学校施設の総点検の実施予定とその結果、今後の修理の予定はどうなっているのか。1月下旬、福山市の小学校でコンクリート片が落ちたため、広島市、廿日市市では、実態の把握と安全対策が検討されたようだが本町ではどうか。

12月議会での決議を受け、教育委員会では、町長部局とともに、今後取り組むべき学校の大規模改造計画の早急な策定に向けて努めているところである。また、今年1月下旬に福山市の小学校でコンクリート片が落ちるといふ事件が発生した。本町においても、このような事態を重くみて、速やかに町内全ての学校の最上階教室の天井裏の点検を実施した。その結果、第一・二小学校で天井裏の異常を確認したため、後日、町開発指導課とともに現地調査を行い、緊急性はないと確認した。

今後の修繕計画は、平成27年度には、耐震改修の最後となる熊野中学校南校舎の工事を行う。また、雨漏り等の対策として、第二小学校南校舎屋上防水工事、第四小学校体育館屋根及び天井の改修工事の実施を予定している。



片川 学 議員

Q 決議を受けた上での教育施設の老朽化対策に対する考えは

A 中長期的な整備計画を策定する予定である。(藤森教育部長)

長期間働きかけしてきた施設営繕等について問う。12月議会において議決した「老朽化している教育施設の整備促進を求める決議」を受け、たうえでの考えを問う。

12月議会において、老朽化した教育施設の整備促進を求める決議をいただいた。教育委員会では、この決議を受け、町長部局とともに、今後取り組むべき学校の大規模改造計画の早急な策定に向けて努めているところである。本町では、平成27年度に予定している熊野中学校南校舎の耐震改修工事をもって、耐震率100%を達成する。学校施設の耐震化が進んできた一方、老朽化対策は十分に進んでおらず、改修・改築の需要が高まることが想定される。今後、将来の財政状況も見通しつつ、老朽化した学校施設を効率的かつ効果的に整備していくことが必要になってくる。

このため、施設の劣化状況や教育内容・方法への適応状況などを適切に把握するとともに、適時・適切な整備ができるよう改修の実施時期や規模を定めた中長期的な整備計画を策定する予定である。